

5月30日 大和三山

竹原 順治

山名	大和三山	山行名	例会
ルート	近鉄畝傍御陵前駅→畝傍山→天香具山→耳成山→近鉄大和八木駅		
山行日	5月30日(月)	天候	晴れ後曇り
参加者	リーダー：竹原順治 サブリーダー：河野典子 男性：相川広秋、佐々木康治 女性：伊藤多恵子、永江淳子、竹原絹栄、上杉郁子 合計 8名		

ルート概略図 	コースタイム				
	地名	時：分	地名	時：分	
大和八木駅	着	8:25	天香具山	着	11:35
	発	8:40	山頂	発	12:20
畝傍山	着	9:30	藤原宮	着	13:00
	発	9:40	跡	発	13:20
畝傍御陵前駅	着	10:20	耳成山	着	14:10
	発	10:25	山頂	発	14:20
本薬師寺跡	着	10:35	大和八木	着	14:50
	発	10:40	駅	解散	13:00

山行報告

畝傍御陵前到着8:25。駅構内上りホームのトイレを使い、改札出口で下見費用分担金及び交通費の集金を済ませる。東出口から出て目の前の畝傍山を仰ぎ見る。青空を背景に新緑のきれいな山姿に「今から行くぞ」と挨拶の声を掛ける。橿原神宮の深い森の中で森林浴を味わいながら登山口に着く。全員で準備体操をしてよく整備された登山道に入る。

月曜日ということもあって、行き交うのはこの山に登ることを日課にしているような我々と同世代のこの近隣の住民と思しき人たちだ。大和三山を男女の三角関係に見たてた中大兄皇子の歌にいつの世も変わらない人生のテーマだとか言いつつ金剛・葛城を背景に集合写真を撮る。直登の急坂をストックを使って下山。神武陵の入り口を左手に見て出発点の畝傍御陵前駅経由で天香具山に向かう。

途中、本薬師寺跡の礎石に1300余年の時間の経過の重みを感じながら小休止。飛鳥テニスクラブではきれいなトイレを借りて、目の前の深い緑に覆われた天香具山に視線を向ける。持統天皇の「春過ぎて夏来にけらし・・・」というまさにこの季節を読んだ有名な歌が口に出てくる。

天香具山登山道は下見とは違う大きく山裾を反時計回りに巡る農道のコースを取った。山頂には裸足の40才前後の男性が居り、彼の「気」についての講釈を一通り聞いた後、先ほど登頂した畝傍を見ながら昼食をとり、集合写真を撮って香具山神社口へ下山する。

県道沿いのきれいなトイレのある休憩所で一息入れてから藤原宮跡に向かう。途中の集落内の用水路で大きなスッポンを見つけて驚く。藤原旧跡では、その北端付近での大規模な発掘作業に出くわし、その作業状況を防護柵越しに右手に見ながら耳成山に向かう。

途中JR線をショートカットで直接横切り(違法)、近鉄線は正規の踏切を渡って、登山口公園の公衆トイレ前で一息入れて、三山目の耳成に挑む。山腹の神社に手を合わせ、その左手から登山道を入れて行けばやがて山頂真下の広場に至る。木で覆われて視界はあまり効かないが、その切れ間から先ほど昼食をとった天香具山が垣間見える。それを背景にして集合写真を撮る。

下山途中で藪の根元でうずくまる猫に会う。猫好きのNさん曰く、捨てられて間もない飼い猫。無責任な飼い主に非難はできるが、その猫のためには何もできず。ご免ねと言いながら無事生きていくことを願うのみ。下山して近鉄線路沿いの車道を大和八木駅に向かい、14:50無事到着。

ヒヤリハット 無し

伊藤多恵子

冬の夜空に大三角形を見つけると、何とはなしに嬉しくなるのと同じかな…。大和三山、その一つ一つは特にどうということもない山なのだけど、藤原宮跡を囲むように正三角形を形作る三山を巡るのは興味深い。CL から「中大兄王子・天武天皇・持統天皇と7世紀前後の出来事」を予習しておくようにとの指示が出ていたので、にわか仕込みの勉強も少しは役に立ったかな。

二つ目に登った香具山の山頂で出会った若者が、親切にも私たちのためにベンチを空けてくれてから、真剣な顔付きで私に言ったこと。日よけ用のマスクをしていた私に、「マスクは気が流れなくなるから止めた方がいい。」「僕は気を流れさせるために靴も脱いでいます。」「確かに靴をぶら下げている。」「衣服もなるべくしめつけられないものを。家も木と土のものに変えました。」「下着だって、ほら!」と言って、ズボンから前かけのようなものを引っ張り出すから、「ふんどしですか?」と訊いたら、そうだ。山とお日様の絵が描いてある手ぬぐいのようなものだった。時々こだわりの強い若者に出会うことがあるが、ふんどしを見せられたことはない。一人だったらちょっと引いてしまうなー。さらに、「今日は新月と太陽と一緒に空を巡っていて、10時に重なるのです。そういう特別な日に来られて良かったですね!」と。



畝傍山山頂

昔から奈良のおおらかな風景が好きだったが、あちこちに古代の香りを残す土地ならではの不思議な人だったようだ。あれ、感想文が違う方向に行ってしまったような…。



天野香具山山頂 (右の背景は畝傍だが上手く映らず)

河野典子

竹原 CL より当日の天気心配です、前日午後6時の降水確率で決めるとのメールがありました。当日の天気は上々でした。畝傍御陵前駅で CL から「SL が先頭で歩きます。CL は最後尾で、もしコースを誤ったら知らせるので安心して先頭を歩いて下さい」との力強い言葉で嬉し

くなり出発です。

天野香具山から耳成山に行く途中の藤原旧跡では遺跡の発掘集団にも出会い、もうすっかり竹原リーダの解説魔術にはまり、悠々の歴史に思いを馳せることができ、とても楽しい山行でした。

私は名ばかりの SL で恥ずかしいでしたが、ご一緒してくださった皆様、ありがとうございました。

歴史ある大和三山で森林浴、藤原京の周辺には立派な邸宅が連なる

佐々木康治

数日前の予報では雨だったが、参加者は善人ばかり、予報は見事に外れ当日は快晴。新田辺駅に集まった男3女5の山岳部は平均年齢73才、「私がダントツの最年少です」と永江さんは鼻高々。三山の最高峰「畝傍山(199m)」では健康 walking を日課としている年配者と頻りにすれ違う。山頂からは二上、葛城、金剛の山々を遠望、暫しウツトリ。次は香具山(152m)、てっぺんで大気浴を満喫している裸足の若者、「みなさん、マスクを外して清冽な空気をいっぱい吸って若返ってください」と力説。三山目の耳成山(140m)には山に向かって適当に歩いていく。一帯は藤原京(694~710)が置かれていた古都、沿道には大邸宅ばかり、ウサギ小屋に住む者にとっては目の毒だ。15:00 前に大和八木駅に到着、早くもビールを傾げる人もいて陽気に駅で解散しました。



耳成山山頂

上杉郁子

歴史の苦手な私.予習をしておくようにとのこと急遽本を開くが頭にはいらぬ。当日は要所ではCLの講義あり。いつもは山を歩くのに必死のわたしだけ今日のはのんびりと振り返りながらの楽しい山行でした。皆様に感謝。

竹原絹栄

大和三山は多分4~5回歩いたと思います。

1つ目は畝傍山。8:50頃登山口を出発。35分で三角点に到達。遠くに二上山を眺めてしばし癒された後下山。天野香久山に向けて本薬師寺跡に立ち寄り、

11:30頃到達。昼食後下山途中これから向かう耳成山を目にしなが、広い藤原旧跡を銘々に散策。図面を見ながら、恐らく CL さんの熱い説明に聞き入ってる様子も伺えました。以前歩いた行程は忘れてましたが、立ち寄り場所で記憶が甦った楽しい山行でした。CL さん SL さん長い距離お疲れ様でした。



天気は曇り後雨の予報が出ていたので心配していたが、当日は計画通り近鉄新田辺駅を出発。前日のクリーンハイクに続く山行となった。

畝傍御陵前駅から、神武天皇陵を右手に見ながら橿原神宮の境内を通り、畝傍山の登山口へ。急に辺りは静けさを取り戻す。畝傍山は昔、火山であったと聞き、このような低山が火山とは驚きの一言。山頂までの途中、樹木の間から金剛山、葛城山を垣間見る。

畝傍山下山後、橿原神宮境内に隣接し綺麗に整備された慰霊公園内を通る。錨の碑があり、何だろうと皆で話しているうちに判明。大東亜戦争中に沈没した航空母艦「瑞鶴」及び「海軍飛行予科練習生」の慰霊碑である。中央に国旗「日の丸」が掲揚。一礼して天香具山に向かう。

途中、本薬師寺跡に立ち寄る。現在の薬師寺の前身で、皇后の病の治癒を願って天武天皇が建立したそうである。その礎石が今も残されている。CLの説明にうなずきながら皆位置を確認していた。天香具山に登頂し次の目的地、藤原宮跡へ。

のどかな田園風景の中に広大な藤原宮跡があり、大極殿の巨大な礎石と柱が復元されている。ここからは大和三山が一望でき、その中心にあることが分かる。ここに立って四方を見渡すと、当時の人々の暮らしがなんとなく目に浮かんできそう。時代が移り替り藤原京から平城京へと繋がれていく。

耳成山公園で小休止とトイレ休憩を兼ね一息入れる。登山口からなだらかな坂を登り、神社参道を抜け山頂三角点に至る。耳成山は円錐形の独立峰で、遠くに二上山を見ることができる。

大和三山は、畝傍山（199m）天香具山（152m）耳成山（139m）から成り、一度は聞いたことがある和歌にも多く歌われている山々。

CLの丁寧な歴史解説を傾聴しながら、飛鳥時代（七世紀頃）のいにしえに想いを馳せて悠久の歴史を感じとる山行でした。計画立案、有り難うございました。安全に終わることができ何よりです。

